

## 「逆らわない者は味方」

2015年07月18日

ルカによる福音書9章49節～50節。そこで、ヨハネが言った。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちと一緒にあなたに従わないので、やめさせようと思いました。」イエスは言われた。「やめさせてはならない。あなたがたに逆らわない者は、あなたがたの味方なのである。」

12人の弟子たちは2人1組になって「神の国」の宣教に遣わされた。主イエスからいやしの権能をいただいた彼らは力強い働きをすることができた。民衆から大きな支持を得、尊敬され、自分たちの宣教の力に酔い、興奮状態だった。ヨハネは誰とペアを組んでいたか分からないが、宣教から帰って来て、主イエスに「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちと一緒にあなたに従わないので、やめさせようと思いました」と得々として報告した。ヨハネが宣教していると、主イエスの名を使って悪霊を追い出している人を見かけた。自分たちの師イエスの名を使うなら、主イエスに従い、我々と行動を共にするように勧めた。主イエスの弟子であることを喜び、権能をいただいていることを誇りにしていたからである。ところが、その人はヨハネの勧めに従わなかった。そこで、従わないのなら、主イエスの名を使って悪霊を追い出す業を止めよと迫った。従わない者は味方ではないと排除した訳である。

ヨハネ、ヤコブ兄弟のゼベダイ家は、マルコ福音書によると、雇い人のいる網元のような大手の漁師であった。金持ちのヨハネは気が荒かったようである。ヨハネ、ヤコブ兄弟は主イエスから「ポアネルゲス（雷の子）」とあだ名がつけられている。短気で、すぐに声を荒げて怒り出す、不寛容な人柄であったようである。主イエスに従わないと聞いて、怒りがこみ上げ、「止めよ」と言い放った。それを、誇らしげに報告している。

主イエスは、ヨハネの報告を聞いて「やめさせてはならない。あなたがたに逆らわない者は、あなたがたの味方なのである」と怒りをたしなめ、寛容であれと諭している。主イエスの寛容の諭しは意味深いと思わされる。

自分の正義を振りかざす人はささいな違いを取り上げ、相手を激しく非難し、反対側に追いやることが多い。非難することに酔いしれ、本来なら、共に歩める仲間を敵に回す偏狭な人がいる。この偏狭さで自らを小さく、貧しいものにしている。今日、寛容さを失い、ギクシャクした争いの多い世相になっている。違いに目ざとくなるより、同じ処を探し、共に連帯する方がどんなに豊かになるかを知るべきである。

権力は敵対する勢力を分断することによって、相手側の力を削ぎ、自らの力を増幅する手段にしている。原発行政において、利益の差をつけ、住民を分断し推し進めた。事故補償においても、同じ手法が使われている。福島の復興支援に関わっている友人から、住民が分断させられ、有効な話し合いができないと嘆きの言葉をしばしば聞いた。政治においても、二大政党による政権交代を可能にしようと小選挙区制が導入されたが、野党は互いの違いに目を尖らして争い、分裂を重ねている。与党は野党同士の争いを誘い、権力の利を得ている。もちろん、命を愛し平和を実現するためには、言うべきこと、なすべきことをしなければならぬ。しかし、反対者を味方につける知恵と論理が必要ではないか。

主イエスは「逆らわない者は味方である」と言われた。この言葉に倣うところに、共にある「福音」の喜びが膨らむ。